

2 0 2 4 年度

学校自己評価報告書

常翔啓光学園中学校・高等学校

I. 学校自己評価の目的

本校の教育活動等の成果を検証し、必要な支援・改善を行うことにより、生徒がより良い教育活動を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指し、教育水準の向上と保証を図ることが重要である。

そのため、学校の教育活動その他の学校運営の状況について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、教職員が現状や課題意識を共有し、学校として組織的・継続的な改善を図ることを目的とする。

II. 実施方法

1. 実施期間：2024年11月27日（水）～12月12日（木）

2. 調査対象：本校教職員97人

職 域	人数	割合（％）
1. 専任教員	52	53.6％
2. 特任教員	31	32.0％
3. 事務室職員	14	14.4％
合 計	97	100％

3. 実施方法：アンケート形式の選択評価

4. 評価項目：（1）基本的生活習慣指導に関すること 2項目
（2）教務・教科指導に関すること 5項目
（3）進路指導に関すること 5項目
（4）クラブ活動に関すること 2項目
（5）学校行事に関すること 7項目
（6）健康管理に関すること 3項目
（7）施設に関すること 3項目
（8）保護者・社会との連携に関すること 3項目

5. 評価方法：①「とても当てはまる または 大変満足している」・・・ プラス評価
②「当てはまる または 満足している」・・・ プラス評価
③「あまり当てはまらない または あまり満足していない」・・・ マイナス評価
④「当てはまらない または 満足していない」・・・ マイナス評価
⑤「わからない」「未回答」

※満足度スコアについては、人数と割合で示している。さらに割合は基準を基にして合計した値を、有効回答数から「わからない」と回答した数を引いた数で割って算出している。

- ①「とても当てはまる または 大変満足している」・・・ +3点
②「当てはまる または 満足している」・・・ +1点
③「あまり当てはまらない または あまり満足していない」・・・ -1点
④「当てはまらない または 満足していない」・・・ -3点

6. その他：2024年度はアンケート項目の一部を見直した。昨年度との比較も織り交ぜながらの評価とする。

Ⅲ. 2024年度「教育目標」と「重点目標」

1. 教育目標

- (1) ユニバーサル社会を創造する自覚と能力を育み、社会に貢献できる人材を育成する。
- (2) 社会に貢献できる学力と人間力を持ち、世界で活躍できる人材を育成するために、充実した進路指導に加えて先進的な教育を実践する進学校となる。

2. 重点目標

	重点目標	自己評価
(1)	中学校・高等学校ともに募集人員の充足	△
(2)	授業第一（授業見学・公開研究授業の継続実施など）	○
(3)	生徒・保護者の希望する進路の実現	○
(4)	国公立大合格 53 名。関西 8 私大 3 女子大進学 64 名。 学園内大進学 153 名	未確定
(5)	生徒、教職員が誇りに思える学校づくり	○
(6)	教育探求部新設に伴う新しい教育活動の創出	◎
(7)	土曜日授業廃止の検討	◎

3. 取り組み内容および自己評価

- (1) 中学校募集人員 90 名に対して入学予定者数は 82 名で（2 月 8 日現在）、募集人員を充足できなかった。入学予定者 82 名は、2013 年度以来 12 年振りに 80 名を超える。前年度よりのべ受験者数も 54 名増加しており、生徒募集に対しては一定の成果を上げることができた。来年度以降もさらに多くの新入生を迎え入れられるよう、教育内容の充実に取り組んでいく。
 高等学校入試は、受験者数は内部進学者を含めると 1,400 名前後を推移している。本校の教育内容や施設の充実が広く周知され、専願率は上昇傾向を維持している。特進、進学各コースの魅力をさらに押し出し、今後とも選ばれる学校としての地位を高めていくよう教育内容の充実を図る。最終的な入学予定者数は、募集人員を超える 420 名前後を予想している。また、引き続き広報活動にもさらに力を入れ、来年度に向けても認知度を高め、さらに安定した受験者の獲得を目指す。
- (2) 授業アンケートを年 2 回実施し、アンケート結果を分析してみると、中高ともに 1 回目（1 学期終了時点）よりも 2 回目（2 学期終了時点）に、評価が下降しているクラスが散見される。しかしながら、今年度も中高ともに満足度が高い数値で推移している。教員評価制度による業績評価の目標

として、各教科主任は授業アンケートの満足度上昇を掲げている。目標達成についての評価はこれからであるが、自己分析を行い、今後の改善に役立てたい。

- (3) 昨年度同様、学力の伸長に対する取り組みとして、長期休暇前の進学講習においてテストゼミ形式の授業を徹底させ、模擬試験や大学入試問題の過去問を解く機会を増やした。適切な時期の進路ガイダンスや入試状況の情報収集など、生徒や保護者への情報提供も欠かさず行っている。
教員間の授業見学を積極的に行う環境を整備し、各教科の研究授業も充実してきている。高校3年生に対する学習面、進路情報提供面では、昨年までより生徒へのサポートがしっかりできた。また、従前どおり生徒面談や保護者面談を繰り返し、これまで以上の進路指導を行い、更なる大学合格実績向上へとつながるように教職員一同取り組んだ。
- (4) 大学合格実績については、現時点では一般入試結果が出そろわない時期なので、実績的な部分についてのコメントは差し控える。社会全体で経済が停滞し、各家庭でも同様の状況が生じている。大学入試にも影響が大きく、受験回数減少や年内推薦入試受験者数増加などが顕著な例である。経済的な問題という生徒本人の学力とは違う要素で卒業後の進路が変わってしまうところは、本来であれば避けたい事柄である。受験指導については例年と変わらず実施できている。進路選択の幅も例年どおりの広がりを見せた。今後も引き続き、「生徒の希望、保護者の願いを叶える」進路指導を実践していく。
- (5) 「IV.自己評価報告」の各項目にあるとおり、すべての項目が及第点であるとは言えない。結果を検証し改善すべき点は改善することで、生徒、教職員が誇りに思える学校づくりを目指す。
- (6) 教育探求部が中心となり、すべての探究活動・学校行事に Liberal Arts を意識した取り組みを実施した。外国人留学生の受入れも積極的に行い、特に高2・高3学園内大学進学クラスにおいては、地域の課題解決型授業の実践と深化に力を入れることができた。また、DX 加速化推進事業の補助金により、教員のリカレント教育推進、各種コンテスト参加、プログラミング講座開講、3D プリンター・電子黒板の購入などを実施した。来年度以降も、さらに充実した取り組みを継続していく。
- (7) 土曜日授業廃止に向けて、年間授業時間数を削減しないように、2026年度以降のカリキュラムや学校行事などの在り方について十分に時間をかけて検討した。また、在校生・保護者に対する説明会を3月に実施して、その目的や今後の学校運営に対して理解と協力をお願いした。

IV. 自己評価報告

達成度の基準については、目標と結果の差により、◎ 0.5 以上(大きく達成)、○ 0.0 以上 0.5 未満(達成)、△ -0.5 以上 0.0 未満(概ね達成)、× -0.5 未満(未達成)とした。

2023年度内に2024年度の満足度スコア目標を設定した。また、直近3か年間の推移を見つめながら2025年度の目標値を設定した。

1. 基本的な生活習慣指導に関すること 2項目

番号	設問文	2024 満足度 スコア目標	2024 満足度 スコア結果	差	達成度	2025 満足度 スコア目標
1	あいさつや時間厳守などの社会に通用する指導を徹底している。	0.4	-0.5	-0.9	×	0.0
2	学校生活のルールや、そのルール遵守についての指導を実施している。	0.7	-0.5	-1.2	×	0.0

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	
2	40				40				17			1
1												
3	41				32				22			2
2												

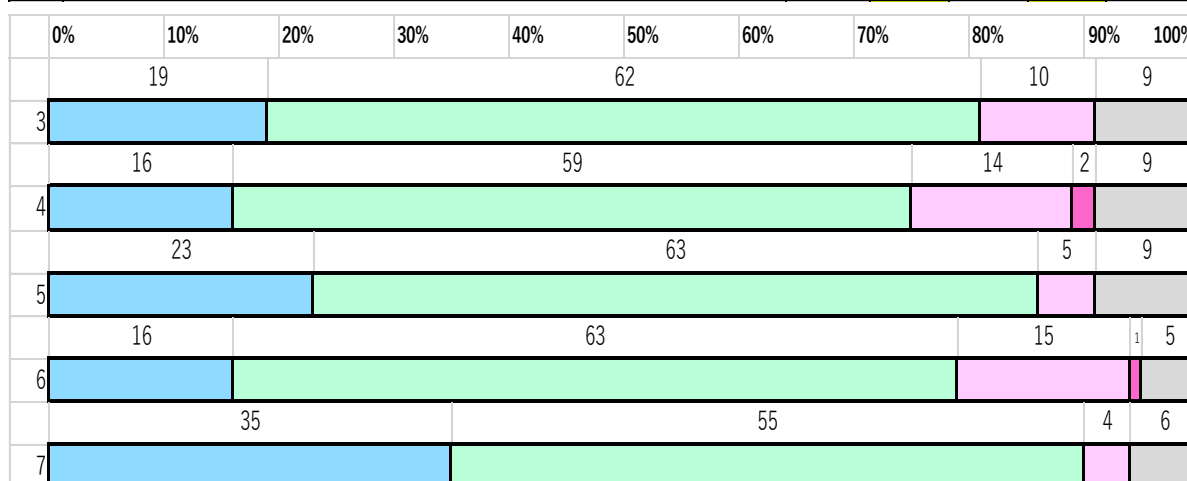
【評価と次年度の目標について】

「社会に通用する指導」「ルール遵守についての指導」に関しては、基本的な生活習慣を身に付けることが、学校生活の土台になると考えている。しかし、今年度は両項目において「あまり当てはまらない」「当てはまらない」とする回答が増え、大きくスコアが下がっている。生徒指導上の問題行動や登校遅刻が増加し、通学途中の徒歩・自転車や公共交通機関利用時のマナーについての苦情も受けている。

基本的な生活習慣の確立、時間やルールの厳守、社会に通用するマナーについては学校での指導に加えて、各家庭における保護者の協力を呼びかけているが、効果的な指導を見いだせず苦慮している。引き続き、生徒指導部を中心に教職員間の意思統一を図り、全学的に徹底した指導が来年度に向けての課題である。

2. 教務・教科指導に関すること 5 項目

番号	設問文	2024 満足度 ｽｽ7目標	2024 満足度 ｽｽ7結果	差	達成度	2025 満足度 ｽｽ7目標
3	授業において、教材や教え方に様々な工夫をしている。	1.4	1.2	-0.2	△	1.4
4	授業のスピードは、生徒の理解度に合わせている。	1.1	1.0	-0.1	△	1.1
5	生徒に授業の年間計画や成績評価の方法について、授業の中で説明している。	1.7	1.4	-0.3	△	1.7
6	充実したわかりやすい内容の授業に努め、生徒の学習意欲を保つようにしている。	1.3	1.0	-0.3	△	1.3
7	生徒からの学習に関する質問などに対して、熱心に対応している。	2.1	1.7	-0.4	△	2.1



【評価と次年度の目標について】

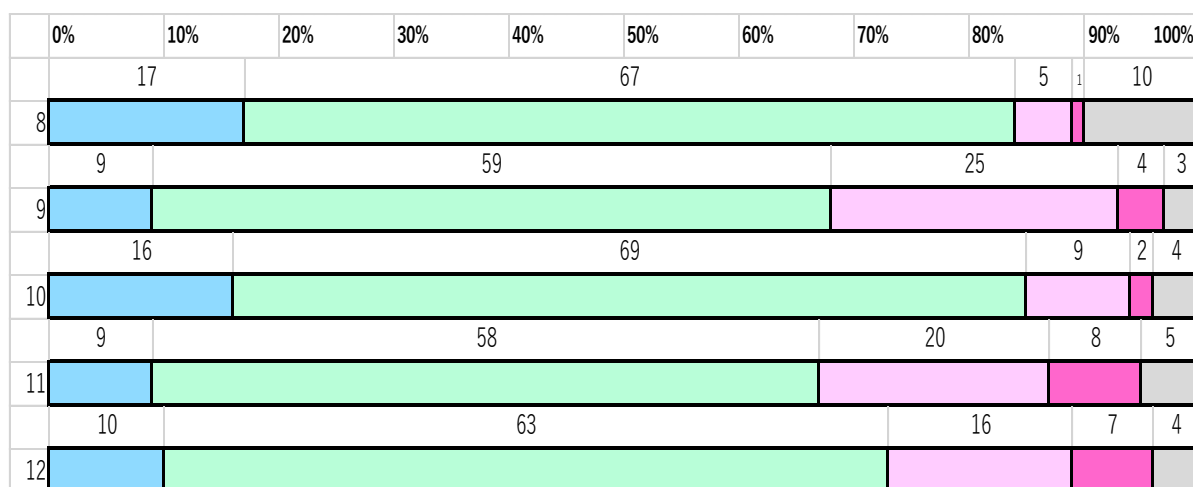
教務・教科指導に関する項目は、すべてのスコアが下がったものの、他の項目に比べて圧倒的に評価が高い。学校教育の最も大切な要素の一つである授業に対する教員の意識の高さがスコアに表れていると感じる。

「授業の年間計画や成績評価の方法」については、長年にわたり蓄積・改良されたものであり、担当者による授業の質の変化を防ぐためにも不可欠である。「教材や教え方の工夫」「生徒の学習意欲の向上」のために、日々遅い時間まで教材研究をしている教員の姿が見られる。そして何よりも「質問に対する熱心な対応」が、昨年度に引き続き、すべての項目の中で最もスコアが高いことが、生徒や保護者からの信頼を得るうえで重要なポイントを占めている。

また、年2回実施している授業アンケート結果に関して、各コースや教科会議で分析・議論しながら、教員個々が自己目標の達成に向けて自己研鑽をするようにしていきたい。

3. 進路指導に関すること 5項目

番号	設問文	2024 満足度 ｽｽ7目標	2024 満足度 ｽｽ7結果	差	達成度	2025 満足度 ｽｽ7目標
8	担任として（担任以外は自分が担任になるとして）、生徒との個人面談では、進路決定に役立つと感じる指導を提供している。	1.6	1.2	-0.4	△	1.6
9	ICT機器の活用やアクティブラーニング型の授業など、新しいデザインの授業を生徒に提供している。	0.7	0.5	-0.2	△	0.7
10	進路ガイダンスを適切に行い、必要とする進路情報を的確に生徒に提供している。	1.2	1.0	-0.2	△	1.2
11	学力向上に役立つと感じる進学講習を実施している。	0.8	0.4	-0.4	△	0.8
12	各種模擬テストは、生徒の学習に役立っている。	0.9	0.6	-0.3	△	0.9



【評価と次年度の目標について】

昨年度に比べてスコアが下がっているが、全体としては肯定的評価が高い。今年度の大学受験は、新課程入試の初年度にあたり、進路指導部からの情報発信が適切に行われており、研修会への参加教員も多かった。「進路決定に役立つ生徒との個人面談」が、進路指導の観点ではうまく機能している。『生徒の希望と保護者の願いを叶える』ことを進路指導の基本方針としており、これを実現するために重点を置いている項目のスコアが高いことは、目標に向けて具体的な動きができているものと考えられる。

コースを主体とした教育実践として、一貫・特進・進学それぞれのコースに特色を持たせた「進学講習」に取り組んでいる。各コースの中でも、習熟度別で講習を展開するなどの工夫が見られた。「各種模擬テスト」項目の改善に向けては、今後も生徒の学力を適切に分析しながら、学力を最大限に伸ばさせるために取り組む予定である。

4. クラブ活動に関すること 2 項目

番号	設問文	2024 満足度 ｽｽ7目標	2024 満足度 ｽｽ7結果	差	達成度	2025 満足度 ｽｽ7目標
13	部活動は、生徒の学校生活を充実させている。	1.1	0.7	-0.4	△	1.1
14	部活動と学習の両立を果たしている生徒が多い。	0.0	-0.1	-0.1	△	0.0

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
	13				59				22	2	4
13											
	5			47			31		13		4
14											

【評価と次年度の目標について】

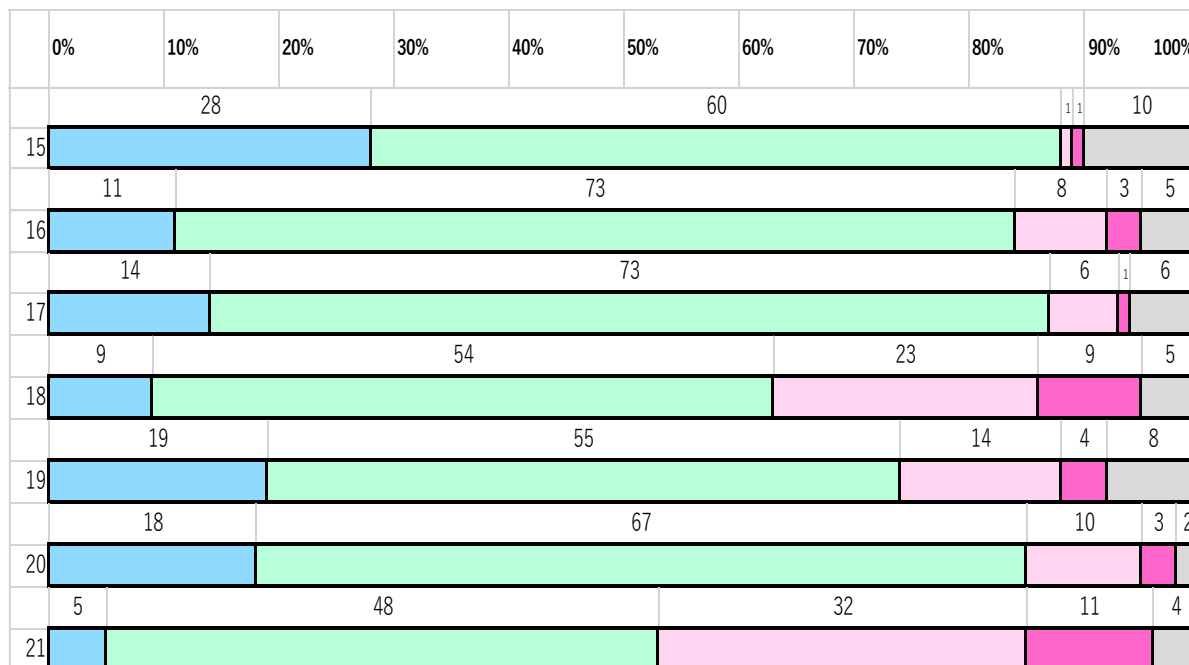
昨年度に引き続き、部活動は「生徒の学校生活を充実させている」反面、「両立を果たしている生徒」があまり多くないという結果である。

今年度も、クラブ活動に関する項目が教職員評価ではあまり高くない一方、生徒や保護者の学校満足度評価では高いスコアとなっている。学年別に比較すると、両項目に対する評価が大きく分かれている。「両立を果たしている」項目に関して、高学年になるにつれてスコアが上昇している要因としては、部活動において中心的な立場となり主体的に活動していることが考えられる。

スポーツ庁が策定したガイドラインに沿って部活動を行っているが、この指標が生徒にすれば望むべき体制といえるのかもしれない。今後は、部活動と学習の両立が達成できるように教科指導における工夫が必要となってくる。授業時間だけではなく、家庭における学習も含めて、生徒が進路実現に向けてしっかり取り組めるような仕掛けを工夫していきたい。

5. 学校行事に関すること 7 項目

番号	設問文	2024 満足度 ｽｽ7目標	2024 満足度 ｽｽ7結果	差	達成度	2025 満足度 ｽｽ7目標
15	修学旅行に生徒は満足している。	1.2	1.6	0.4	○	1.7
16	体育祭に生徒は満足している。	1.1	0.9	-0.2	△	1.1
17	啓光祭に生徒は満足している。	1.0	1.1	0.1	○	1.2
18	K1クエスト（大学での探求活動）などをはじめ、中高大連携の取り組みは満足できるものである。	0.9	0.3	-0.6	×	0.5
19	学外との連携（未来を啓くプロジェクトなど）を深め、生徒の興味関心を広げる取り組みをしている。		0.9			0.9
20	他国・地域の歴史・文化を理解し、海外の人々や学校と交流する機会を提供している。		1.0			1.0
21	生徒会活動は活発である。	0.4	0.0	-0.4	△	0.4



※質問項目19・20は今年度から新規導入。

【評価と次年度の目標について】

「修学旅行」「啓光祭」の項目において、昨年度を上回る高評価となった。「修学旅行」に関しては、高校生では行先を海外として、現地交流、語学習得、探究活動など、それぞれのコースに特徴と目的をもって、安全面にも十分注意しながら実施している。「啓光祭」に関しては、台風接近のために急な日程変更となったが、高3模擬店による食品販売を再始動させ、各学年やクラブにおいても様々な工夫が見られた。

「生徒会活動」では、生徒会執行部員が中心となり、学校行事の企画・運営やボランティア活動への参加、校則の見直しなど、生徒が主体的に活動する雰囲気が生まれてきた。

「学外との連携」「海外の人々や学校との交流」に関しては、今年度から新たにアンケート項目に追加したが、肯定的評価が高かった。教育探求部が中心となり、多様化する生徒の興味関心を深める内容の新規企画が高スコアに繋がったように考える。

「中高大連携」に関しては、昨年度に比べてスコアが大幅に下がった。これまでも学園内大学との連携を図ってきたが、今後は実施時期や内容について、互いの担当者の創意工夫をさらに進めていきたい。

6. 健康管理に関すること 3 項目

番号	設問文	2024 満足度 ｽｽ7目標	2024 満足度 ｽｽ7結果	差	達成度	2025 満足度 ｽｽ7目標
22	生徒の安全・健康に関する指導を的確に行っている。	0.8	0.5	-0.3	△	0.8
23	生徒の体調が悪い時など、保健室は適切な対応をとっている。	1.5	1.4	-0.1	△	1.5
24	人権学習を効果的に行っており、生徒の悩みの相談に対応できている。	0.7	0.5	-0.2	△	0.7

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	
	6	63						24		3	4	
22												
	30			58						5	2	5
23												
	9	58						21		5	7	
24												

【評価と次年度の目標について】

すべての項目において、肯定的評価が多かった。

「安全・健康に関する指導」では、保健室前の掲示板を利用した啓蒙活動や保健だより・カウンセラー通信の発行が継続的に行われている。

「保健室の適切な対応」は、ここ数年継続して高スコアである。日常の学校生活での評価はもちろんのこと、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザに対する対応について文部科学省や大阪府からのガイドラインに従い、感染拡大防止に向けて徹底した指導をリードした。

「生徒の悩みの相談」には担任をはじめ学年教員、養護教諭、そしてスクールカウンセラーによるカウンセリングなどを行っている。この点においても、養護教諭とスクールカウンセラーの協力の結果と考える。学校関係者による、心身両面でのサポートに努めていきたい。来年度も引き続き、生徒や教職員の健康管理に取り組んでいく。

7. 施設に関すること 3 項目

番号	設問文	2024 満足度 ｽｺｰ目標	2024 満足度 ｽｺｰ結果	差	達成度	2025 満足度 ｽｺｰ目標
25	清掃活動や環境美化指導を徹底している。	0.3	0.2	-0.1	△	0.3
26	学校の施設・設備は、学習環境・教育環境として満足できるものである。	1.1	0.8	-0.3	△	1.1
27	図書室は利用しやすいようにいろいろと工夫をしている。	1.2	1.2	0.0	○	1.3

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
	14		42				29		11	4	
25											
	14		66						13	5	2
26											
	22		64						5	4	5
27											

【評価と次年度の目標について】

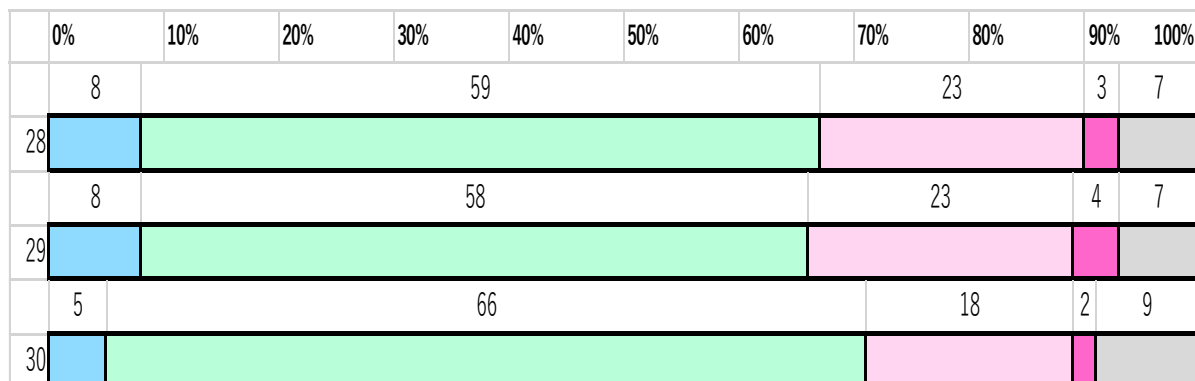
「清掃活動」に関しては、校内のみならず校外の清掃活動も定期的実施している。特に、校外清掃は生徒会執行部が中心となり、積極的に取り組んでいる。一方、清掃業者の方々が、生徒や教員では目の行き届かない隅々まで気を配っていただいている現状も忘れてはならない。清掃は教育活動の一環であることからすると、もう少し生徒と教員で清掃活動を行う必要があるともいえる。

「学校施設・設備」に関しては、例年は高スコアであったが、今年度は少し下がった。引き続き、旧式となった電子機器の新型への交換、3Dプリンターの新規購入など、ICT機器を活用した教育を推進するための環境整備を積極的に行っていく。また、体育館の空調（エアコン）や換気設備の設置を進めることにより、教育環境の改善を図りたい。

「図書室の利用」に関しては、昨年度と同様に高い評価であった。図書室職員の増員により、生徒や教職員への気配りが増したと考える。来年度以降もさらに改善に取り組んでいく。

8. 保護者・社会との連携に関すること 3項目

番号	設問文	2024 満足度 ｽｺｱ目標	2024 満足度 ｽｺｱ結果	差	達成度	2025 満足度 ｽｺｱ目標
28	学校の情報を、家庭へきめ細かく提供できている。	0.5	0.6	0.1	○	0.7
29	学校のホームページを活用することができている。	0.2	0.5	0.3	○	0.6
30	生徒は、包括的に考えて学校生活に満足している。	0.7	0.6	-0.1	△	0.7



【評価と次年度の目標について】

学校から保護者への家庭連絡に Classi（クラッシー）を利用する教員が増え、学校内での様子などについての情報提供が年々スムーズになっていると感じる。毎日の欠席連絡に関しても、全学年において Classi を利用することにより、保護者からも高評価を得ている。

「ホームページの活用」は、本校を知ってもらう最良のツールとなっている。社会全体でもインターネットの普及により、情報収集にホームページを活用することは極めて一般的である。昨年度から本校も Instagram（公式アカウント）を開設して、最新情報を提供しよう工夫を凝らしており、年々フォロワーも増加している。学校生活や取り組み紹介、クラブ活動、募集活動などさまざまな観点から情報を発信している。しかし、情報提供が遅れた場面もあり、今後の改善点である。

「家庭への情報提供」「ホームページの活用」は、この2年間において年々スコアが上昇しており、タイムリーな情報提供を今後も継続していく。

「生徒の満足度」の向上については、一つひとつの取り組みを大切に、教職員全員で協力し、さらにより良い学校を築いていきたい。

V. 総合評価と今後の改善方法

教育の質と内容が変化していくなか、昨年度とはアンケート項目も少し変えて本校の教育活動の検証を行った。質問項目数は、昨年度と同じ30項目である。

「満足度スコア」において、30項目中3項目でマイナス評価であった。全体的には、プラス評価ではあるものの昨年より数値が下がっているものがあり、個々の満足度についてはまだまだ改善の余地がある。もともと肯定的評価が高いものについてはそれ以上の結果を求めることは至難の業ではあるが、やはり更なる高みを目指して教育活動に励んでいきたい。

今年度と昨年度を比較した際、「基本的生活習慣指導に関すること」の項目が、大幅に評価が下がっていることが来年度に向けての課題である。少なくとも、2022年度の水準にまでは戻したい。

「教務・教科指導」に関しては生徒の授業アンケートからも高い評価は得ているが、授業内容について興味関心を掻き立てるような工夫が必要である。ICT 機器を活用した授業への取り組みは、全学的なさらなる検討が必要となる。今後も教員同士の授業見学や研究授業により、教員の教育力向上を図りたい。

「進路指導」に関する自己評価は少し下がってはいるが、大学入学共通テストへの対策や情報収集にも積極的に取り組み、生徒や保護者への情報提供をさらに進めていきたい。授業で教える内容や生徒が学ぼうとする意欲をさらに高め、卒業後の進学に関しては、生徒一人ひとりの願いを叶える指導を徹底する。

本校では「グローバル教育」「キャリアデザイン教育」「イノベーション教育」を3つの教育の柱とし、日々教育実践に邁進している。目的や目標を持って学習活動や学校行事に取り組んでほしいと考えているが、毎年の繰り返しによってそれが薄らいでしまっている感がある。それを払拭するために、そして目的や目標を取り組み前に確認し、取り組み後に振り返りがしっかりできるように、各行事で身に付けてほしい9つの力を見える化した「K¹GOALS」を策定している。これにより生徒たちは何ができるようになったかを実感することができる。学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」が体感できるように、積極性のある生徒を育てていきたい。

これらの改善に取り組む一方で、教職員の働き方改革にも取り組んでいる。ICT 機器の活用やワークシェアの実践など、少しずつではあるが改善の兆しも見える。来年度からは新たにフルクラウド統合型校務支援システム BLEND を導入することにより、教職員の業務を一元管理することで業務時間の軽減を図る。会議時間の短縮やメールでの情報共有などが定着しつつあり、学校外での時間も有意義に過ごし、教員それぞれが健康で心豊かな生活が送れるようにということを念頭に置きながら、サービス改善を実行中である。また、2026年度以降の学校運営に関して、土曜授業0時間の実現に向けて、カリキュラム改編や学校行事の見直し、授業時間数の確保などを各種会議で検討した。教員の長時間労働が社会問題化し、本校だけで解決できるものではないが、学園全体として積極的に取り組んでいるところである。

1. あいさつや時間厳守などの社会に通用する指導を徹底している。
2. 学校生活のルールや、そのルール遵守についての指導を実施している。
3. 授業において、教材や教え方に様々な工夫をしている。
4. 授業のスピードは、生徒の理解度に合わせている。
5. 生徒に授業の年間計画や成績評価の方法について、授業の中で説明している。
6. 充実したわかりやすい内容の授業に努め、生徒の学習意欲を保つようにしている。
7. 生徒からの学習に関する質問などに対して、熱心に対応している。
8. 担任として(担任以外は自分が担任になるとして)、生徒との個人面談では、進路決定に役立つと感じる指導を提供している。
9. ICT 機器の活用やアクティブラーニング型の授業など、新しいデザインの授業を生徒に提供している。
10. 進路指導に関するガイダンスや行事を適切に行い、必要とする情報を的確に生徒に提供している。
11. 学力向上に役立つと感じる進学講習を実施している。
12. 各種模擬テストは、生徒の学習に役立っている。
13. 部活動は、生徒の学校生活を充実させている。
14. 部活動と学習の両立を果たしている生徒が多い。
15. 修学旅行に生徒は満足している。
16. 体育祭に生徒は満足している。
17. 啓光祭に生徒は満足している。
18. 中高大連携の取り組み(K¹クエスト、高1 思春期教室・異文化交流、高2 みらいマップ、学園内大学説明会など)は満足できるものである。
19. 学校外との連携(未来を啓けプロジェクト、企業探究プログラムなど)を深め、生徒の興味関心を広げる取り組みを提供している。
20. 他国・地域の歴史・文化を理解し、海外の人々や学校と交流する機会を提供している。
21. 生徒会活動は活発である。
22. 生徒の安全・健康に関する指導を的確に行っている。
23. 生徒の体調が悪い時など、保健室は適切な対応をとっている。
24. 人権学習を効果的に行っており、生徒の悩みの相談に対応できている。
25. 清掃活動や環境美化指導を徹底している。
26. 学校の施設・設備は、学習環境・教育環境として満足できるものである。
27. 図書室は利用しやすいようにいろいろと工夫をしている。
28. 学校の情報を、家庭へきめ細かく提供できている。
29. 学校のホームページを活用することができている。
30. 生徒は、包括的に考えて学校生活に満足している。